

当院の
輸血療法委員会の現状報告

国家公務員共済組合連合会呉共済病院

荒谷千登美

国家公務員共済組合連合会

呉共済病院

1904年設立

病床数:440床(結核:46 一般:394)

一日平均外来患者数:800~900人

RCC	3629単位
FFP	1854単位
PC	1410単位
アルブミン	40839g
自己血貯血	175単位

本日の内容

- 当院の輸血関連業務の変遷
- 輸血療法委員会の歴史
- 委員会の効力発揮に必要なもの
- 輸血科としての委員会における取り組み
- 問題事項(事例)からの取り組みと効果
- 診療支援への取り組み
- 福岡輸血療法委員会見学の報告
- 広島県合同輸血療法委員会に期待すること

当院の輸血関連業務の変遷

- 血液製剤の管理



- 交差適合試験の主たる方法

試験管法
結果:ろ紙

カセット法
ろ紙廃止

T&S対応
全自動
(カセット法)

当院の輸血療法委員会の歴史

H12年？ごろから必要時に開催

輸血療法委員長：検査部長（血液内科）

事務局：薬局

検査部からは技師長のみ参加

H16年から一元化に伴い輸血担当技師も委員に

同年8月に一元化

H17年電子カルテ&輸血オーダーリング開始

H18年度より事務局：輸血科（年6回開催）

委員会の効力発揮に必要なもの

院内で影響力の大きい委員：医師の選出

検査部長

輸血科部長（麻酔科医）

心臓血管外科医

外科医

消化器内科医

師長2名（手術部、外科病棟）

薬局長、検査部技師長、医事課長

輸血科技師2名

輸血科の委員会での役割

- ・議事内容の設定
 医師の出席率の向上に～議事内容の充実
- ・日程調整
- ・会議室手配
- ・日程・議事内容の案内
- ・資料の準備
- ・議事進行
- ・議事録の作成
- ・情報発信：院内メール、広報誌（検査だより）

議事内容-1

固定したテーマ

- ・血液製剤の適正使用推進の呼びかけ
 - * 血液製剤の月別使用、廃棄内容および金額、科別での使用返品を集計報告
 - * FFP/RCC比アルブミン/RCC比
- ・副作用報告

議事内容-2

院内製剤ストック量の検討
危機的出血マニュアルの確認
院内輸血マニュアルの見直し(病院機能評価)
副作用・不規則抗体産生等の具体的事例報告
輸血カード発行の審議
自己血採血のセンター化
輸血に関わるインシデント報告&対策
非輸血(エホバの証人)マニュアル作成
エホバの証人の医療機関連絡委員会との交流会の
報告&顧問弁護士との話し合い
診療支援:輸血前後感染症検査の説明

新たに見えてきた問題点

エホバの証人が被害者の場合の交通事故での対応
加害者の罪が左右されるのでは？

術前感染症結果の患者への告知の問題

輸血副作用歴のある患者での出庫時の工夫

他の委員会で再検討と周知徹底

安全対策委員会
顧問弁護士の見解

輸血前後感染症検査の説明

～臨床支援～

平成20年に「輸血前後感染症の説明書、同意書」を作成し輸血同意書を取る際に、同資料の配布を院内に義務付けた。

しかし輸血を実際に行うケースが少ない外科系は、術前に輸血の同意書は取るが、感染症検査の資料は患者に配布していないという現状があった。

輸血前後感染症検査についての 説明文の中に・・・

輸血後検査を行う医師の方へ

輸血前検査結果によってすべき検査項目が絞られる項目がありますので下記連絡先までご連絡ください。輸血前検査結果がわかっている場合にはお知らせしません。

＊輸血後感染症の該当ウィルス検査には以下の項目を実施してください

B型肝炎ウィルス検査 : HBV-DNAリアルタイムPCR

C型肝炎ウィルス検査 : HCVコア抗原

エイズウィルス検査 : HIV抗体(患者さまの同意が必要です)

輸血後感染症の結果が陽性に出た場合は輸血による感染かどうか精密検査を行いますので必ず以下に...
輸血の使用記録は当...
した患者さまの血清...
ております。

連絡・問合せ先

院内の検査オーダー画面に
輸血前・後の感染症セットとして
追加し、レセプト漏れ防止として
医事システムにコメントとして
知らせる仕様に

95

★ 紹介 何で必要な？輸血前後感染症検査

通巻6号

医薬品による副作用等の健康被害が発生した場合、国が救済するという制度があります。輸血療法においては主に肝炎ウイルスやエイズウイルス感染などが救済の対象となります。

この救済制度を受けるためには輸血による感染であるという証明をしなくてはなりません。そこで輸血前後感染症検査が必要となってきます。輸血科では、輸血を受けられる患者様を対象に、万が一の被害に備え、患者様が救済制度を受けられるように輸血前後感染症検査について説明を行っています。

	輸血前検査	輸血後検査
B型肝炎 (HBV)	HBs抗原 HBs抗体 HBc抗体	HBVDNA
C型肝炎 (HCV)	HCV抗体 HCVコア抗原	HCVコア抗原
エイズ (HIV)	HIV抗体	HIV抗体



【HBc抗体って何？】

HBc抗体とはB型肝炎ウイルス(HBV)のコア抗原に対する抗体で、HBVに感染した人はほぼ一生この抗体を保有します。そのためHBc抗体陽性の場合にはHBV感染者もしくは既往者と判断できます。なんと50歳以上では健康人でもHBc抗体の陽性率はなんと3割以上もあるんです！

【de novo肝炎とは？】

最近では製薬会社が注目している抗体が肝炎や...

【どのくらい...】

血液センターでの...

輸血によるC型肝炎...

全医師
院内の全部門
地域連携室から開業医へも
配信

【輸血前検査により対象外となってしまう検査結果とは？】

HBV: 輸血前検査でHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体のいずれかの項目で陽性となった場合

HCV: 輸血前検査でHCVコア抗原が陽性となった場合 (HCV抗体のみ陽性の場合はOK)

HIV: 輸血前検査でHIV抗体が陽性となった場合

輸血後感染症を
実施した他院からの問い合わせ
にも輸血科で対応

輸血前後検査のQ & A

Q: 輸血前後感染症検査について

A: 万が一の被害に備え、
2010年1月から2012年1月
2年間で80件の説明

Q: 費用はかかるのでしょうか？

A: 検査費用は... (一部保険適用あり)

輸血前検査実施 98人 / 561人 (17.4%)

輸血後検査実施 42人* / 561人 (7.4%)

* 当院での実施人数で他院での実施は把握できていない

輸血前検体の保管は100%実施

A: 「

9項目のQ & A

「B型肝炎
HIV抗体」

情報の発信・共有

輸血の使用状況を毎月全職員対象に院内コミュニケーションで配信し、T&Sの活用も促す(2009年7月開始)

- 廃棄金額および科別返品状況の公表により、医師の輸血オーダーへの配慮の向上
- T&Sの件数が大幅に増加(1ヶ月当時50件が現在150件)

他部署に向かって情報を発信していくことが輸血業務の改善には特に重要

福岡県輸血療法委員会 見学報告

2011.11.16(水曜日)

テーマ：増え続ける血液需要 －適正使用の進め方－

九州大学病院	: 1275床
久留米大学病院	: 1098床
福岡大学病院	: 915床
聖マリア病院	: 1188床
麻生飯塚病院	: 1116床
九州厚生年金病院	: 575床

製剤別血液製剤使用量の推移
年齢層別、疾患別使用状況や患者あたり使用量の推移
から増加要因、減少要因を内的要因、外的要因等から
分析し適正使用の推進方策を紹介

多方面からの分析

施設により**患者年齢層に格差**があった

科別のデータとして集計しているが、**疾患別でみるのが有用。**
でも集計がむずかしい

血液内科→**幹細胞移植**、治療方針からも輸血使用量が左右

消化器外科→**肝臓移植**の有無

心臓血管外科手術件数

患者年齢層：高齢化

高度医療の為、**延命**

医師の差？**手のかかる治療に消極的？**輸血以外の試みエリスロ
ポエチン使用など

FFP、アルブミン使用に対する**医師向けの警告文**の紹介

今後の広島県合同輸血療法委員会 に期待すること

情報の共有から

古い慣習の
見直し

先進の大学病院や他施設の輸血療法の現状を知り、良い事は自施設での導入のきっかけにすることができる

1単位2個
凍結製剤

今まで以上の血液センター・施設間の協力体制が期待できる

今後、より深刻化する血液不足対策として、1単位製剤の有効利用

近隣施設間での協力体制を県の事業として認可できる体制の確立等

医療機関・血液センター・県(行政)
の協力体制

ま と め

安全かつ適正な輸血療法を行う上で院内の輸血療法委員会の役割が大きく作用する

輸血療法委員会のレベルアップはそのまま輸血療法のレベルアップに繋がる

広島県合同輸血療法委員会においても、県内の情報の共有と協力体制の構築から、血液製剤の有効利用もふくめ、より安全かつ適正な輸血療法へと繋いでいきたい